

# 山形県内出土斎串の集成と分類

山内 七 恵

## 1 はじめに

発掘調査によって山形県内の遺跡から出土した斎串（いぐし）は数多い。斎串とは、短冊状の薄板あるいは立体的な棒で、串の形状を呈する木製品である。主に奈良時代・平安時代の遺構から出土し、そこで行われた祭祀やまじないに使用された道具であると考えられている。

斎串の先行研究は、『木器集成図録-近畿古代篇-』<sup>\*1</sup>、『斎串考』『日本考古学論集3 呪法と祭祀・信仰』<sup>\*2</sup>等がある。『木器集成図録-近畿古代篇-』は、唐古・鍵遺跡を含む近畿地方の遺跡から出土した木製品を集めた図録である。『木器集成図録-近畿古代篇-』に記載されている斎串の型式分類は、薄板の両端の形状によって4型式に分類し、更に側面からの切込みの形状によって8型式に分類するものである。「斎串考」は、筆者である黒崎直氏が、斎串の分類と変遷を行って諸問題をまとめた研究論文である。「斎串考」に記載されている型式分類は、切込みの形状によって6型式に分類し、更に上端部の形状や切込みの回数で細分している。この二稿は、斎串の形状の特徴的な要素を捉えて型式分類を行っており、前者は薄板の両端の形状に、後者は切込みの形状に重点を置いている。本稿では『木器集成図録-近畿古代篇-』に記載された型式分類を引用しつつ、両端の形状と切込みの形状の両方に視点を置いて考察を試みたい。

山形県内出土の斎串を集成し、分類を行うことによって、山形県の古代祭祀の復元に役立つことができれば幸いである。

## 2 研究の流れ

山形県内出土の斎串の資料を収集した。今まで刊行されている各遺跡発掘調査報告書を検索したところ、17遺跡から227点の斎串が出土していた。このうち1点は、1981年に酒田市教育委員会が史跡城輪柵外郭西門跡の北西部を発掘調査した際に出土したという事実が、1982年

に刊行された略報に記載されている。しかし、この資料の詳細な情報（実測図・計測表・写真）が記載されていないため、取り扱うことができない。よって本稿では、16遺跡から出土した226点の資料を研究対象とする。

報告書の記述を基に、資料の各部（図1）の計測値と情報を一覧にした（表1）。一覧表に記した内容は、遺跡名・遺物年代・出土地点・型式・長さの値（）・幅の値（mm）・厚みの値（mm）・全体形状・上部形状・下部形状・切り込みの11項目である。長さと幅と厚みの値は、最も大きい計測値を記した。上部形状が圭頭状の資料は、先端の角度が100度以上の場合を鈍角圭頭状、70度以下の場合を鋭角圭頭状と定めて明記した。一覧表を基に、分類と考察を行う。

## 3 型式分類

本稿では、『木器集成図録-近畿古代篇-』<sup>\*1</sup>に記載された型式分類を引用する。山形県内出土の斎串に見られる特殊な形状を、新たに分類項目に付加した（図1）。

両端の形状の分類に英字を使用する。A型式は両端をそれぞれ一側面から鋭く斜めに切り落としたもの。B型式は両端を圭頭状に作るもの。C型式は上端を圭頭状にして下端を剣先状に作るもの。D型式は上記の3型式に属さないものとする。

切込みの分類にローマ数字を使用する。I式は切込みを入れないもの。II式は側面を割裂くように上端木口から割れ目を入れるもの。III式は上端近くの側面の左右1箇所に切込みを入れるものとし、上端の斜辺からの切込みも含む。IV式は、上端近くの側面の左右2箇所以上に切込みを入れるもの。V式は側面の上端と斜め下から左右2箇所以上に切込みを入れるものであり、この場合1箇所の切込み回数が4～5回に及ぶことがある。VI式は両側面の左右対称位置を三角形に切欠くもの。VII式は、IV式とVI式が組み合わさったもの。但し、引用している参考文献の『木器集成図録-近畿古代篇-』では、P70

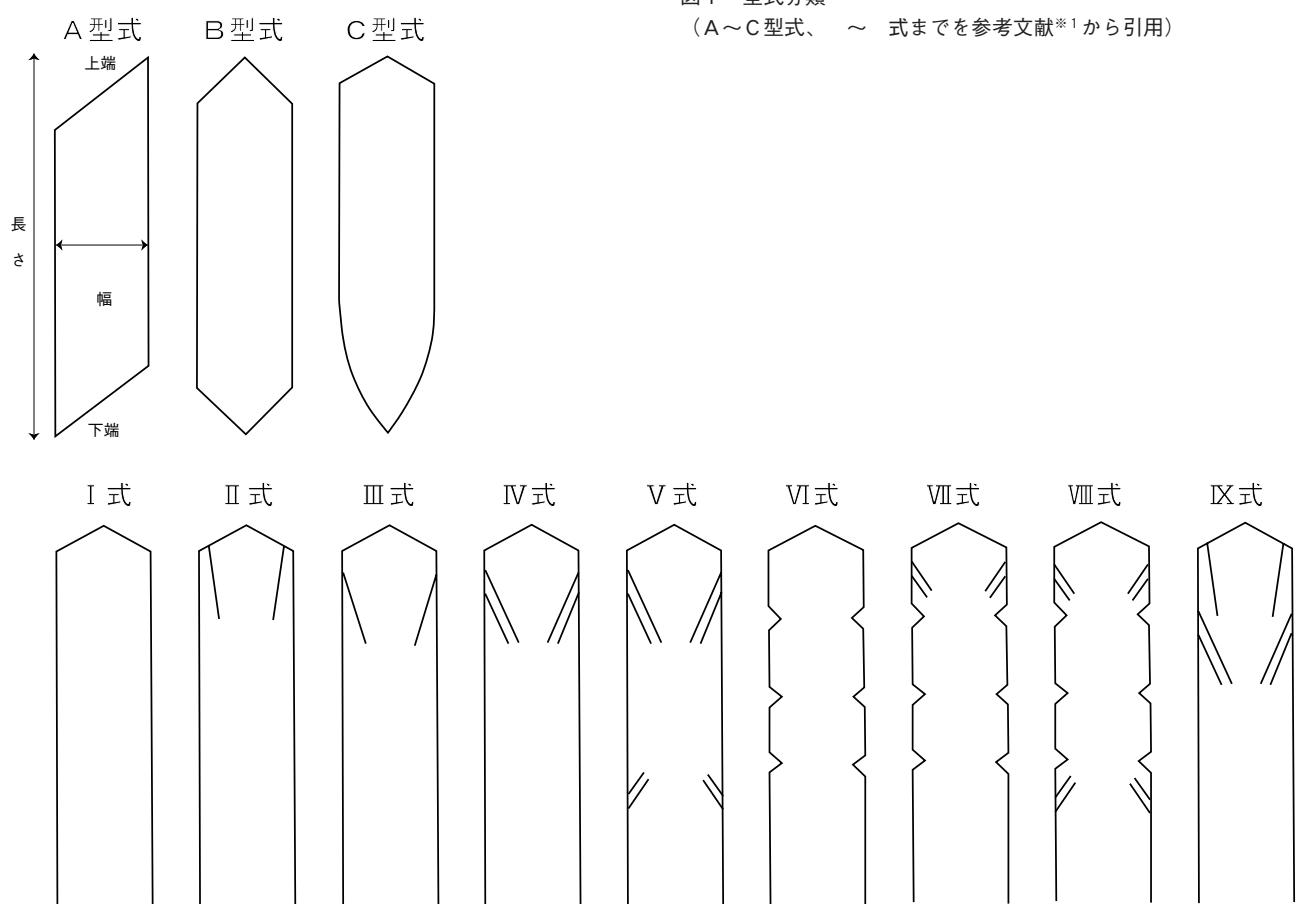


図1 型式分類  
(A～C型式、～式までを参考文献<sup>※1</sup>から引用)

の15行目に「VII式はIII式とVI型式が組合さつたもの」と記載されている。論文の内容や図版と照合したところ、正しくはIV式とVI式が組み合わさつたものであると本稿では解釈した。式は、V式とVI式が組み合わさつたものとする。

山形県内出土の斎串に見られるII式とIV式が組み合わさつた形状を型式分類に付加し、IX式と位置づける。

上記したI～IX式に属さない形状をX式とする。

## 4 考 察

### ① 資料の分類

#### (1) 棒と薄板の分類について

本稿では、厚みの値が幅の値の二分の一以下の形状は薄板、二分の一以上の形状は棒と分類し、一覧表に明記した。全体資料数226点の内、薄板が200点、棒が25点、判別不可能な資料が1点という結果が出た。薄板の資料数が圧倒的に多く、模範的な形状であったことが確認できた。棒の資料はC I型式が1点、C II型式が2点、D I

型式が1点であり、残りの21点は残念ながら型式不明であった。棒の資料には、切込みが有る形状と無い形状が存在する。

薄板と棒の用途の違いであるが、現時点では斎串の用途を確証できる要素が少ないと明瞭にできない。

#### (2) 型式分類について

山形県内出土の斎串を15型式に分類できた(表2)。A型式の資料と、VII式・VIII式の資料は山形県内からの出土例が無い型式である事が分かった。VII式・VIII式は、左右対称位置を三角形に切欠き、更に切込みを有するという特徴がある。切込みは無いが三角形の切欠きを有するVI式の資料は、1点のみ出土している。山形県内では、三角形の切欠きを要する斎串が普及しなかったことが窺える。三角形の切欠きの有無は、斎串の用途(祭祀やまじないの内容)に深く関係しているように思われる。三角形の切欠き部分に使用痕がみられた報告が無いため、デザインとして成形された可能性も考えられる。

型式と遺物年代の関係を表にした(表2)。本稿の遺物

表2 型式と遺物年代の関係

	B	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	D	D	D	不明	合計
8世紀					1	5	3	1	2							2	14
9世紀	1	1	1		5	19		2		2			2	1		66	100
10世紀		1			4	18		3		2	1		1	1	9	40	
古代		1			7	7		2	1	1		1	1			28	49
11世紀		2			2	3		4								11	22
15世紀中葉～16世紀中葉													1				1
合計	2	4	1	1	23	50	1	9	5		4	3	4	2	1	118	226

年代は報告書の記述を基に特定している。但し、8世紀以降11世紀迄に出土していることは明確であるが、それ以上の詳細な遺物年代が判明していない資料に関しては古代に区分した。

表2を見ると、9世紀の資料が最も多いことが分かる。『類聚三代格』に嘉祥四年二月二十一日付の太政官符が記載されており、出羽国の解状に対して太政官が応じ、9世紀の出羽国に陰陽師が置かれた事が記されている。陰陽師とは、『令義解』に「掌らむこと、占筮して地相む事。」と記され、土地の吉凶を占う役職であったことが分かる。斎串を用いて占筮をしていたという確証は無いが、陰陽師が置かれた9世紀頃は庄内地方に国府が存在し<sup>註1</sup>、律令体制が整っていたため多くの律令祭祀が行われていた可能性がある。律令祭祀の盛行に伴って斎串が普及したのではないだろうか。

山形県内で一番普及していたと考えられるCⅡ型式の斎串は、9世紀と10世紀の資料が多いことが分かった。また、IX型式の斎串も9世紀と10世紀の資料が多いことが分かった。

8世紀から11世紀にかけての資料を、時代が途切れる事無く確認できた。特に9世紀の資料が多く、この時代は斎串を要する祭祀が盛行されたと推測できる。

## ②資料数の割合

両端の形状に着目した場合、全体資料数の割合はA型式0点(0.0%)、B型式8点(3.5%)、C型式95点(42.0%)、D型式7点(3.1%)、型式不明116点(51.4%)である(グラフ1)。C型式の資料数が圧倒的に多く、模範的な型式であると言える。B型式とD型式の資料数は極僅かで、A型式においては資料が全く無いという結果が出た。

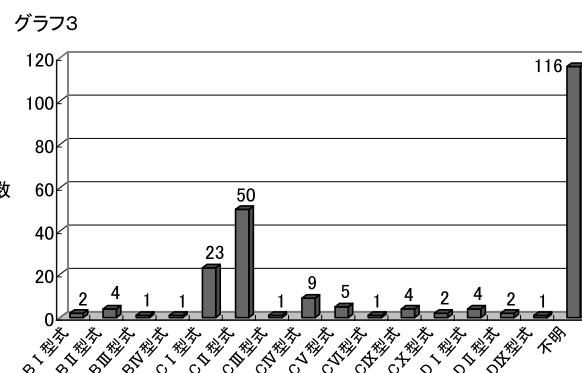
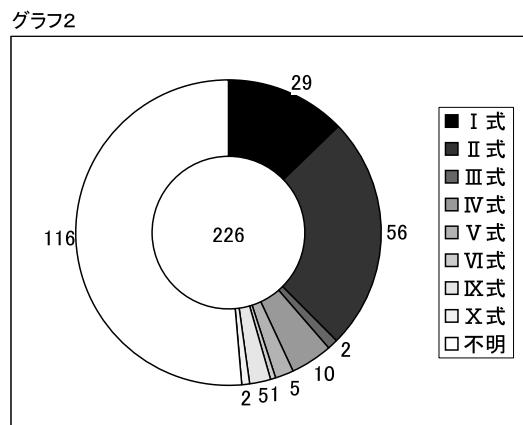
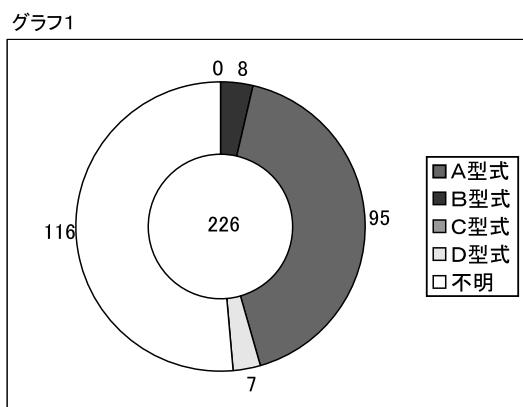
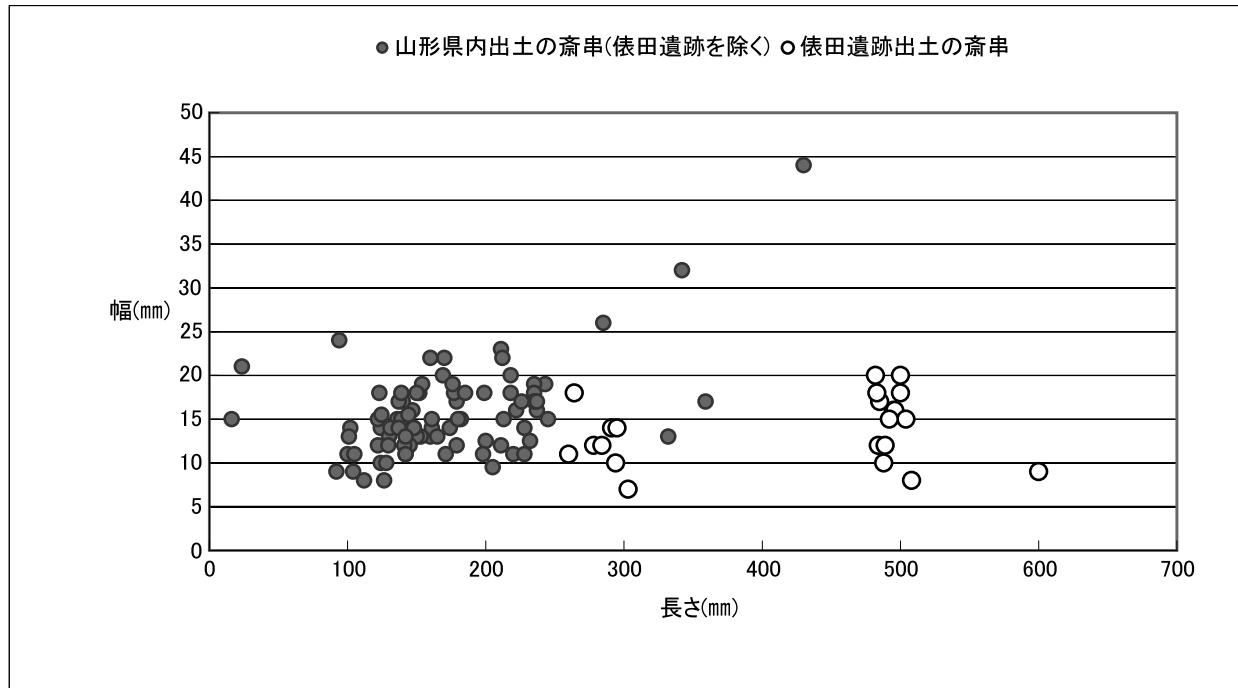


図2 資料の大きさ



切込みの形状に着目した場合、全体資料数の割合はI式29点 (12.8%)、II式56点 (24.8%)、III式2点 (0.9%)、IV式10点 (4.4%)、V式5点 (2.2%)、VI式1点 (0.4%)、IX式5点 (2.2%)、X式2点 (0.9%)、型式不明116点 (51.4%) である (グラフ2)。II式の資料数が最も多く、模範的な型式であると言える。続いてI式、IV式の資料数が多く、その他は極僅かである。

両端の形状と切込みの形状を組み合わせて分類した場合、全体資料数の割合はB I型式2点 (0.9%)、B II型式4点 (1.8%)、B III型式1点 (0.4%)、B IV型式1点 (0.4%)、C I型式23点 (10.2%)、C II型式50点 (22.1%)、C III型式1点 (0.4%)、C IV型式9点 (4.0%)、C V型式5点 (2.2%)、C VI型式1点 (0.4%)、C IX型式4点 (1.8%)、C X型式2点 (0.9%)、D I型式4点 (1.8%)、D II型式2点 (0.9%)、D IX型式1点 (0.4%)、型式不明116点 (51.4%) である (グラフ3)。C II型式の資料数が最も多く、山形県内出土の斎串の模範的な型式であると言える。次いでC I型式が全体資料数の約1割を占め、普及した型式であると言える。

### ③資料の大きさ

幅と長さの値が明確な資料は108点である。これを対象に、大きさの値を示す分布図を作成した (図2)。分布

図の作成にあたって、山形県飽海郡八幡町 (発掘当時の住所) に所在する俵田遺跡から出土した斎串を、別系列として取り込んだ。俵田遺跡からは、律令祭祀の「祓所」が検出されている<sup>註2</sup>。祭祀遺構や、祭祀道具の一つと考えられる壺の中から、他の遺跡の斎串とは異なる特殊な大きさの斎串が出土した。

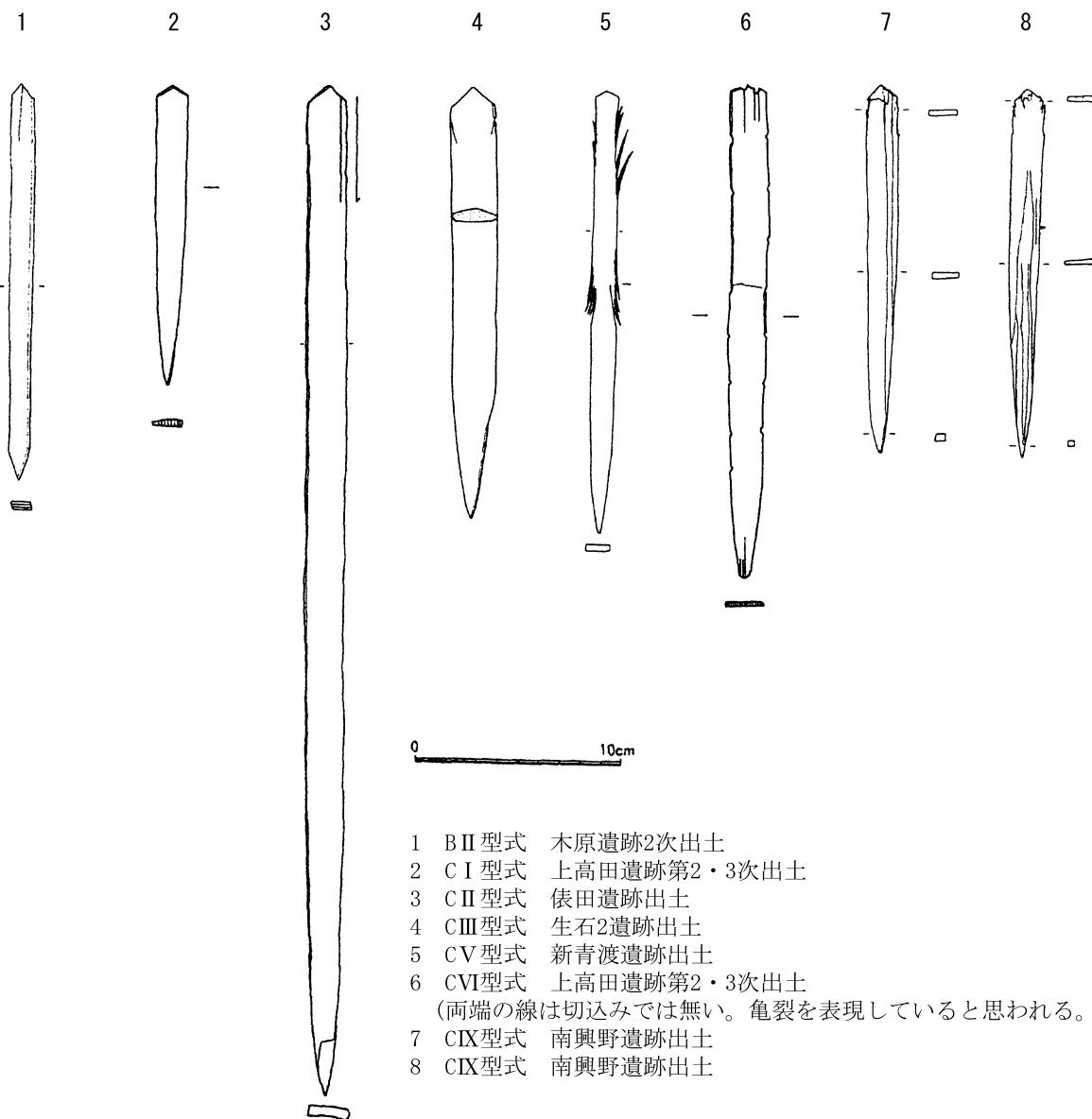
図2を見ると、山形県内出土の斎串は長さが100mm ~ 250mm、幅が10mm ~ 20mm の間の値を示す資料が多く、この値が平均であることが分かる。

俵田遺跡出土の斎串は、長さが300mm 前後と500mm 前後、幅が10mm ~ 20mm の間の値を示す資料が多い。長さが500mm 前後と、それ以上の値の資料は、全て俵田遺跡から出土している。幅の値は、山形県内出土の斎串の平均値に適合する。俵田遺跡からは、長さの値が大きい斎串が出土していることを確認できた。細長い斎串を要する祭祀が行われていたと推測できる。

### ④ IX式について

IX式の資料は他県での出土報告が稀少なため、先行研究の型式分類に組み込まれていない。山形県内の2ヶ所の遺跡から計5点の出土報告があるので、山形県内出土の斎串の特殊な形状であると推定し、本稿では型式分類に組み込むこととした。

図3 出土例



酒田市に所在する南興野遺跡から出土した38点の資料のうち、第1次調査で発見された3点と第2次調査で発見された1点がIX式である。山形市に所在する今塚遺跡からは1点の斎串が出土しており、その資料がC IX型式である。

IX式の斎串の遺物年代は、9世紀と10世紀後半であることが分かった。側面を割裂くように上端木口から割れ目を入れ、更に上端近くの側面の左右2箇所以上に切込みを入れる形状であり、切込みの数が多いという特徴がある。この特徴を要する祭祀やまじないが、9世紀～10世紀後半頃に行われていたと推測できる。

大きさは、幅の値が平均よりやや大きい資料を2点確認できた。切込みの数が多いため、幅を広めに作製して強度を高めたのかもしれない。今後もIX式の斎串の出土報告を期待すると共に、着目して見解を深めていきたい。

##### ⑤ 出土地点について

斎串が出土した16遺跡中、14遺跡が庄内地方に所在する(図3)。近年、庄内地方で行われている日本海沿岸東北自動車道建設に係る発掘調査でも、古代の遺構から斎串が出土したという報告があった。9世紀の庄内地方には出羽国の国府が置かれており<sup>註1</sup>、律令制に係る祭祀や

まじないに伴って斎串が普及したと考えられる。

斎串が出土する遺構は、祭祀遺構、河川、溝、井戸、土壙等がある(図4)。祭祀遺構ではさまざまな祭祀が行われ、多種の型式の斎串が使用されていた可能性がある。資料の大きさの考察で触れた俵田遺跡の祭祀遺構からは、C型式とD型式の2種類の斎串が出土している。

河川と溝でも様々な祭祀が行われた可能性がある。井戸では、廃棄する際に儀式を行い、斎串を使用したと考えられる。

「斎串考」<sup>※2</sup>によると、土壙からは多数の木製品が出土しているにも関わらず、斎串や人形などの祭祀道具が出土することは極めて稀であると言う。土壙は不用な物品の廃棄場とされた場合が多く、祭祀道具と考えられている斎串が投棄されることは少なかったのではないだろうか。

## 5 まとめ

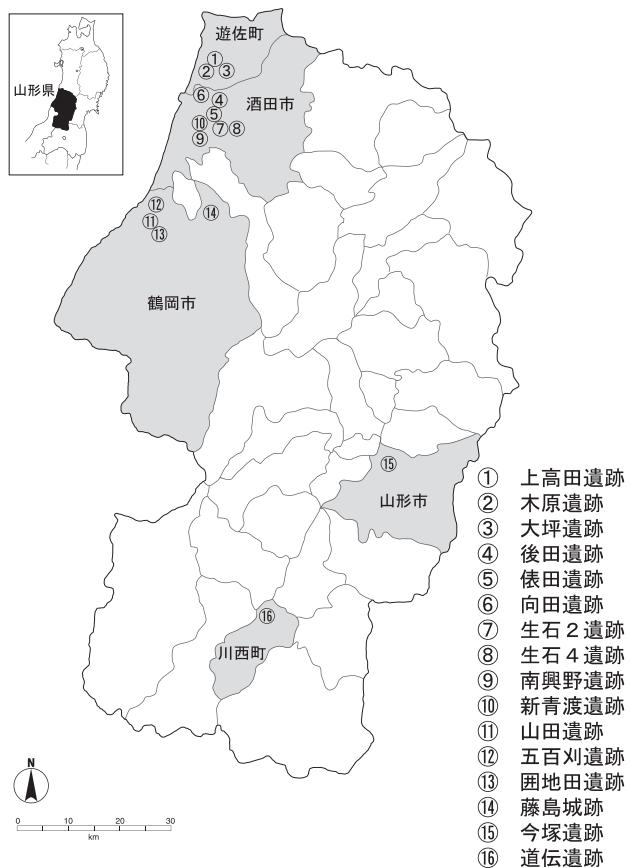
山形県内出土の226点の斎串を集成し、分類を行った。山形県内出土の斎串は、薄板が模範的な形状である。型式分類すると、上端を圭頭状として下端を剣先状に作り、側面を割裂くように上端木口から割れ目を入れる形状(C II型式)の資料が最も多く、模範的な型式であることが分かった。長さが100mm~250mm、幅が10mm~20mmの値が平均の大きさである。但し、俵田遺跡の祭祀遺構からは長さが300mm前後や500mm前後の、平均より長い斎串が出土した。

側面を割裂くように上端木口から割れ目を入れ、更に上端近くの側面の左右2箇所以上に切込みを入れる形状(IX式)の斎串が数点出土しており、切込みの数が多い斎串を要する祭祀やまじないも行われていたことが推測できる。

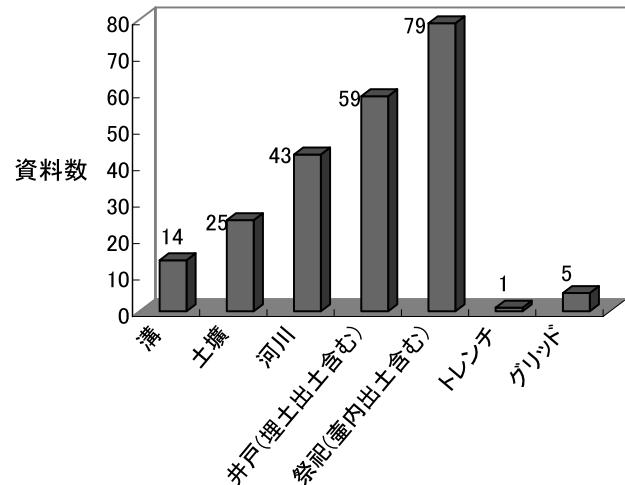
8世紀から11世紀にかけての資料を、時代が途切ること無く確認できた。特に9世紀の資料が多く、この時代に斎串を要する祭祀やまじないが盛行されたと思われる。

資料の大方が庄内地方から出土している。9世紀は庄内地方に出羽国の国府が置かれており<sup>註1</sup>、多くの律令祭祀が行われていたと考えられる。それに伴って、斎串が普及した可能性がある。

図4 斎串が出土した遺跡の位置図



グラフ4 斎串が出土した遺構と資料数



## 6 今後の課題

本稿では山形県の古代祭祀の復元に役立てるよう、これまで行われていなかった斎串の集成と分類に取り組んだが、以下の課題が残った。

用途に応じて斎串の形状が多種に及んだと考えられる

が、用途の考察を行うことが出来なかった。文献資料や民俗資料と照らし合わせて検討していきたい。また、今後もIX式に着目して見解を深めたい。

## 謝 辞

本稿執筆にあたり、渋谷孝雄氏、斎藤健氏にご指導を頂いた。文献資料の解釈に際しては、渡辺和行氏からご助力を頂いた。ここに記して感謝の意を表したい。

1)『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』によると、出羽国の国府（城輪）が現在の庄内地方に置かれていたと考えられている。

2)「平城京と祭場」『国立歴史民俗博物館研究報告第7集 共同研究「古代の祭祀と信仰」本篇』によると、俵田遺跡は『延喜式』に記された祓所の状況にあたると考えられている。

### 引用・参考文献

- ※1 奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録 - 近畿古代篇 - 』
- ※2 黒崎直「斎串考」斎藤忠1986『日本考古学論集3 呪法と祭祀・信仰』
- 黒坂勝美1993『新訂増補 国史大系<普及版>類聚三才格 前篇』
- 黒坂勝美1992『新訂増補 国史大系<普及版>令義解』
- 国立歴史民族博物館「平城京と祭場」『国立歴史民俗博物館研究報告第7集 共同研究「古代の祭祀と信仰」本篇』
- 奈良文化財研究所2004『古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編』
- 律令祭祀研究会1988『律令祭祀遺物集成』
- 第25回古代城柵官衙遺跡検討会事務局（財団法人山形県埋蔵文化財センター内）1999『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2006『発掘やまがた最前線 平成18年度 山形埋蔵文化財発掘調査報告会資料』
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2006『研究紀要第4号』
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004『研究紀要第2号』
- 山形県教育委員会1983『農林事業関係遺跡（2）発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第64集
- 山形県教育委員会1984『俵田遺跡2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第77集
- 山形県教育委員会1984『新青渡遺跡2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第79集
- 山形県教育委員会1987『生石2遺跡発掘調査報告書（3）』山形県埋蔵文化財調査報告書第117集
- 山形県教育委員会1987『生石4遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第118集
- 山形県教育委員会1987『南興野遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第114集
- 山形県教育委員会1988『南興野第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第122集
- 山形県教育委員会1988『生石4遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第125集
- 山形県教育委員会1991『圃地田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第167集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994『今塚遺跡発掘調査報告書』第7集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994『木原遺跡第2次発掘調査報告書』第8集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1992『五百刈遺跡発掘調査報告書』第10集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994『藤島城跡第6次発掘調査報告書』第18集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1995『大坪遺跡第2次発掘調査報告書』第23集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1995『上高田遺跡・木戸下遺跡発掘調査報告書』第25集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1996『向田遺跡発掘調査報告書』第34集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1998『上高田遺跡第2・3次発掘調査報告書』第57集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2001『山田遺跡発掘調査報告書』第83集
- 酒田市教育委員会1982『史跡 城輪柵跡 - 昭和56年度発掘調査略報（1）-』
- 川西町教育委員会1982『山形県川西町 道伝遺跡第2次重要遺跡確認調査概報』
- 川西町教育委員会1984『山形県川西町 道伝遺跡発掘調査報告書 - 置賜郡衙推定地 - 』

表1 山形県内出土斎串一覧

No.	遺跡名(次数)	遺物年代	出土地点	型式	長さ( )	幅( )	厚み( )	全体形状	上部形状	下部形状	切込み
1	上高田遺跡	9世紀～10世紀	河川(S G 6)	C	342.0	32.0	4.0	板	鈍角圭頭状	劍先状	
2		9世紀～10世紀	河川(S G 6)	C	160.0	13.0	5.0	板	圭頭状	劍先状	上端に有
3		9世紀～10世紀	河川(S G 6)	C	171.0	11.0	4.0	板	圭頭状	劍先状	上端に有
4		9世紀～10世紀	河川(S G 6)	C	161.0	14.0	2.5	板	鈍角圭頭状	劍先状	上端に有
5		9世紀～10世紀	河川(S G 6)	不明	(143.0)	15.0	4.5	板	圭頭状	欠損	上端に有
6		9世紀～10世紀	河川(S G 6)	不明	(115.0)	19.0	7.0	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
7		9世紀～10世紀	河川(S G 6)	不明	(155.0)	18.5	4.5	板	欠損	劍先状	
8		9世紀～10世紀	河川(S G 6)	不明	(198.0)	23.0	8.0	板	欠損	欠損	
9		9世紀～10世紀	河川(S G 6)	不明	(194.0)	20.5	7.0	板	欠損	劍先状	
10	上高田遺跡(第2・3次)	8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 4)	C	136.0	15.0	3.0	板	鈍角圭頭状	劍先状	上端に有、上端の左右方向に有
11		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 7)	不明	182.0	(7.0)	3.0	板	欠損	欠損	上端に有
12		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 7)	C	122.0	12.0	2.5	板	圭頭状	劍先状	上端に有
13		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 8)	不明	(473.5)	15.0	6.0	板	圭頭状	欠損	
14		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 8)	C	152.0	18.0	4.0	板	圭頭状	劍先状	
15		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 8)	C	179.0	17.0	3.0	板	圭頭状	劍先状	上部両脇に毛羽先状切込有
16		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 8)	不明	(95.0)	24.0	2.0	板	鈍角圭頭状	欠損	
17		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 9)	C	153.0	13.0	4.0	板	鈍角圭頭状	劍先状	上端に有
18		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 9)	C	243.0	19.0	2.0	板	鈍角圭頭状?	劍先状	上端に有
19		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 9)	不明	(132.0)	20.0	3.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
20		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 9)	C	147.0	16.0	4.0	板	鈍角圭頭状	劍先状	
21		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 9)	C	154.0	19.0	5.0	板	圭頭状	劍先状	上端に有
22		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 9)	不明	(99.0)	19.0	5.0	板	鋸角圭頭状	欠損	
23		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 9)	C	332.0	13.0	4.5	板	圭頭状	劍先状	
24		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 9)	C	169.0	20.0	5.0	板	圭頭状	劍先状	上部両脇に毛羽先状切込有
25		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 8)	不明	(252.0)	25.0	3.0	板	鈍角圭頭状	欠損	
26		8世紀後半～10世紀後半	河川(S G 1 F 7)	不明	342.0	(19.0)	5.0	板	欠損	劍先状?	
27	木原遺跡(第2次)	9世紀後葉	井戸(S E 8 F)	C	200.0	12.5	3.0	板	鋸角圭頭状	劍先状	上端に有
28		9世紀後葉	井戸(S E 8 F)	B	198.0	11.0	4.0	板	圭頭状	鋸角圭頭状	上端に有
29		9世紀後葉	井戸(S E 8 F)	不明	150.0	18.0	2.5	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
30		9世紀後葉	井戸(S E 8 F)	不明	124.0	10.0	3.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
31		9世紀後葉	井戸(S E 8)	C	213.0	15.0	4.5	板	圭頭状	劍先状	上端に有
32		9世紀後葉	井戸(S E 8 F)	D	235.0	19.0	7.0	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
33		10世紀前葉	土壤(S K 43 F)	D	205.0	9.5	3.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
34		9世紀中葉～10世紀中葉	土壤(S K 12 F)	不明	(144.0)	11.0	8.0	棒	欠損	欠損	
35		9世紀中葉～10世紀中葉	グリッド(F-5- )	不明	(95.0)	14.0	5.0	板	欠損	劍先状	
36		9世紀中葉～10世紀中葉	グリッド(F-5- )	不明	(126.0)	15.0	3.0	板	欠損	劍先状	
37		9世紀中葉～10世紀中葉	グリッド(F-5- )	不明	(91.0)	11.0	4.0	板	欠損	劍先状	
38		9世紀中葉～10世紀中葉	グリッド(F-6- )	不明	(94.0)	10.0	6.0	棒	欠損	劍先状	
39		10世紀前葉	土壤(S K 43 F)	C	100.0	11.0	2.0	板	圭頭状	劍先状	上端に有
40	大坪遺跡(第2次)	9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	C	430.0	44.0	6.0	板	鈍角圭頭状	劍先状	上部と下部の両端に毛羽状切込有
41		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	不明	(110.0)	26.0	4.0	板	鈍角圭頭状	欠損	
42		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	不明	(136.0)	36.0	5.0	板	欠損	欠損	
43		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	不明	(104.0)	24.0	5.0	板	鈍角圭頭状	欠損	
44		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	C	102.0	14.0	4.0	板	圭頭状	劍先状	
45		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	不明	(64.0)	16.0	4.0	板	圭頭状	欠損	
46		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	D	94.0	24.0	2.0	板	平状	劍先状	
47		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	C	92.0	9.0	5.0	棒	鈍角圭頭状	劍先状	
48		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 F-9捨て場)	不明	(126.0)	9.0	2.0	板	欠損	劍先状	
49		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 D-7捨て場)	不明	(120.0)	11.0	2.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
50		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 D-7捨て場)	C	104.0	9.0	4.0	板	鈍角圭頭状	劍先状	上端に有
51		9世紀後半～10世紀前半	河川跡(S G 1 D-7捨て場)	不明	(65.0)	24.0	4.0	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
52	後田遺跡	11世紀	井戸側埋土(S E 18側)	C	23.5	21.0	3.0	板	鈍角圭頭状	劍先状	上部と下部の両端に毛羽状切込有
53		11世紀	井戸側埋土(S E 18側)	C	16.2	15.0	4.5	板	鈍角圭頭状	劍先状	
54	後田遺跡(第2次)	9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(153.0)	16.0	3.5	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
55		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(118.0)	8.0	4.0	棒	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
56		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(218.0)	15.0	5.0	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
57		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(128.0)	17.0	2.0	板	鈍角圭頭状?	欠損	上端に有
58		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	600.0	9.0	3.0	板	圭頭状	劍先状	
59		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	278.0	12.0	3.0	板	圭頭状	劍先状	
60		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	291.0	14.0	4.5	板	圭頭状	劍先状	上端に有
61		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	295.0	14.0	4.0	板	圭頭状	劍先状	
62		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	284.0	12.0	3.5	板	鈍角圭頭状	劍先状	
63		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(142.0)	19.0	3.0	板	圭頭状	欠損	
64		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(73.0)	10.0	5.5	棒	圭頭状	欠損	
65		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	495.0	16.0	2.5	板	圭頭状	劍先状	上端に有
66		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	482.0	20.0	2.5	板	鈍角圭頭状	劍先状	上端に有
67		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	500.0	18.0	4.0	板	圭頭状	劍先状	上端に有
68		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	496.0	16.0	5.0	板	圭頭状	劍先状	上端に有
69		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	500.0	20.0	5.0	板	圭頭状	劍先状	上端に有
70		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	504.0	15. .0	5.0	板	圭頭状	劍先状	上端に有
71		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(402.0)	19.0	2.5	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
72		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(445.0)	18.0	4.0	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
73		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	508.0	8.0	6.0	棒	圭頭状	劍先状	上端に有
74		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	不明	(482.0)	9.0	5.0	棒	欠損	劍先状	上端に有
75		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	264.0	18.0	4.5	板	圭頭状	劍先状?	上端に有
76		9世紀中葉	祭祀(S M 60)	C	260.0	11.0	3.5	板	圭頭状	劍先状	上端に有

No.	遺跡名(次数)	遺物年代	出土地点	型式	長さ( )	幅( )	厚み( )	全体形状	上部形状	下部形状	切込み
77	俵田遺跡(第2次)	9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(63.0)	10.0	3.5	板	圭頭状	欠損	上端に有
78		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(207.0)	14.0	3.5	板	欠損	剣先状	
79		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(249.0)	10.0	4.0	板	欠損	欠損	
80		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(430.0)	10.0	5.5	棒	欠損	剣先状	
81		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(53.0)	10.0	4.5	板	欠損	剣先状?	
82		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(171.0)	5.0	5.0	棒	欠損	剣先状?	
83		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(128.0)	7.5	5.0	棒	欠損	剣先状	
84		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(60.0)	3.0	8.0	棒	欠損	剣先状?	
85		9世紀中葉	祭祀(S M60)	D	303.0	7.0	6.0	棒	尖状	剣先状	
86		9世紀中葉	祭祀(S M60)	D	294.0	10.0	4.0	板	尖状	剣先状	
87		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(294.0)	8.0~9.0	5.0~6.5	棒	欠損	剣先状?	
88		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(300.0)	8.0	5.0	棒	欠損	欠損	
89		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(170.0)	7.0	4.0	棒	欠損	欠損	
90		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(236.0)	7.0	8.0	棒	欠損	剣先状?	
91		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(302.0)	14.0	6.0	板	欠損	欠損	
92		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(277.0)	13.0	4.0	板	欠損	欠損	
93		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(244.0)	13.0	6.0	板	欠損	欠損	
94		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(199.0)	12.0	3.5	板	欠損	欠損	
95		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(197.0)	10.0	5.0	棒	欠損	欠損	
96		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(194.0)	16.0	3.0	板	欠損	欠損	
97		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(208.0)	12.0	3.0	板	欠損	欠損	
98		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(451.0)	13.0	3.0	板	欠損	欠損	
99		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(430.0)	11.0	6.5	棒	欠損	欠損	
100		9世紀中葉	祭祀(S M60)	不明	(393.0)	24.0	7.0	板	欠損	欠損	
101		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(212.0)	9.0	6.0	棒	圭頭状	欠損	
102		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(126.0)	7.0	3.0	板	圭頭状	欠損	
103		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	C	485.0	17.0	4.0	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
104		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	C	484.0	12.0	4.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
105		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	C	488.0	10.0	5.0	棒	圭頭状	欠損	上端に有
106		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	C	483.0	18.0	4.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
107		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	C	492.0	15.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
108		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	C	489.0	12.0	5.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有
109		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(260.0)	17.0	4.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
110		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(189.0)	16.0	3.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
111		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(196.0)	15.0	5.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
112		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(115.0)	18.0	3.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
113		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(134.0)	16.0	4.0	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
114		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(159.0)	12.0	6.0	棒	圭頭状	欠損	上端に有
115		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(56.0)	11.0	3.5	板	圭頭状	欠損	上端に有
116		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(158.0)	7.0	6.0	棒	欠損	剣先状?	
117		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(238.0)	7.0	7.0	棒	欠損	剣先状?	
118		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(297.0)	14.0	2.0	板	欠損	欠損	
119		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(209.0)	14.0	2.5	板	欠損	剣先状	
120		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(348.0)	16.0	3.0	板	欠損	剣先状	
121		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(231.0)	13.0	4.0	板	欠損	剣先状	
122		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(198.0)	14.0	4.0	板	欠損	剣先状	
123		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(116.0)	16.0	4.0	板	欠損	剣先状	
124		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(71.0)	12.0	2.0	板	欠損	剣先状	
125		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(58.0)	9.0	1.5	板	欠損	剣先状	
126		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(131.0)	9.0	3.0	板	欠損	剣先状	
127		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(119.0)	11.0	3.0	板	欠損	剣先状	
128		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(175.0)	8.0	3.0	板	欠損	剣先状?	
129		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(230.0)	15.0	5.0	板	欠損	剣先状	
130		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(138.0)	12.0	4.0	板	欠損	剣先状?	
131		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(185.0)	11.0	2.0	板	欠損	剣先状	
132		9世紀中葉	祭祀(S M60)人面墨書き器(98)	不明	(222.0)	8.0	2.0	板	欠損	欠損	
133	向田遺跡	10世紀後半	井戸(S E 108)	C	218.0	20.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有
134		10世紀後半	井戸(S E 108)	C	(260.0)	18.0	5.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
135		10世紀後半	井戸(S E 108)	不明	(200.0)	23.0	5.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
136		10世紀後半	井戸(S E 108)	C	(130.0)	15.0	4.0	板	鈍角圭頭状	欠損	
137		10世紀後半	井戸(S E 108)	C	124.0	14.0	2.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
138		10世紀後半	井戸(S E 108)	C	105.0	11.0	—	不明	圭頭状	剣先状	上端に有
139	生石2遺跡	8世紀	溝(S D 100)	C	359.0	17.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	
140		8世紀	溝(S D 100)	C	211.0	23.0	6.0	板	圭頭状	剣先状	左右に有
141		8世紀	溝(S D 100)	C	212.0	22.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	
142		8世紀	溝(S D 100)	C	174.0	14.0	4.5	板	鈍角圭頭状	剣先状	
143		8世紀	井戸(S E 490)	C	165.0	13.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	
144		8世紀	井戸(S E 490)	C	161.0	15.0	4.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
145		8世紀	井戸(S E 490)	C	150.0	13.0	4.0	板	圭頭状	剣先状	上部に毛羽先状切込有
146		8世紀	井戸(S E 490)	C	130.0	13.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有
147		8世紀	井戸(S E 490)	C	131.0	14.0	2.5	板	圭頭状	剣先状	上端に有
148		8世紀	溝(S D 100)	不明	(141.0)	18.0	4.0	板	圭頭状	欠損	
149		8世紀	溝(S D 100)	C	139.0	15.0	2.0	板	圭頭状	剣先状	
150		8世紀	井戸(S E 250~F 1)	不明	(70.0)	10.0	3.0	板	欠損	剣先状	
151	生石4遺跡	9世紀	井戸(S E 2 Y)	C	222.0	16.0	4.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	左右に有
152		9世紀	井戸(S E 2 F 4)	B	179.0	12.0	5.0	板	圭頭状	銳角圭頭状	左右に有
153		9世紀	井戸(S E 2 F 4)	不明	(139.0)	17.0	3.0	板	欠損	欠損	

No.	遺跡名(次数)	遺物年代	出土地点	型式	長さ( )	幅( )	厚み( )	全体形状	上部形状	下部形状	切込み
154	生石4遺跡(第2次)	9世紀	トレンチ(D)	不明	(249.0)	18.0	5.0	板	圭頭状	欠損	刻みの下に毛羽先状切込有
155	南興野遺跡	9世紀	井戸(S E 54 F 4)	C	182.0	15.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	刻みの上に毛羽先状切込有
156		9世紀	井戸(S E 54 F 4)	C	180.0	15.0	2.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有、刻みの上に毛羽先状切込有
157		9世紀	井戸(S E 54 F 4)	B	145.0	12.0	5.0	板	圭頭状	圭頭状	
158		9世紀	井戸(S E 54 F 4)	不明	(162.0)	(8.0)	2.0	板	圭頭状	欠損	
159		9世紀	井戸(S E 54 F 4)	C	148.0	14.0	2.0	板	欠損	欠損	上端に有
160		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	142.0	11.0	5.0	板	欠損	欠損	上端に有
161		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	141.0	12.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有
162		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	不明	(110.0)	12.0	3.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
163		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	237.0	16.0	2.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	
164		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	不明	(206.0)	16.0	3.0	板	鈍角圭頭状	欠損	上端に有
165		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	235.0	18.0	5.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
166		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	236.0	17.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
167		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	228.0	14.0	2.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
168		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	218.0	18.0	5.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端左右方向に有、刻み下に毛羽先状切込有
169		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	235.0	17.0	6.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
170		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	226.0	17.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
171		10世紀後半	井戸(S E 63 F 6)	C	237.0	17.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
172		10世紀後半	井戸(S E 203)	C	245.0	15.0	4.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有、刻みの下に毛羽先状切込有
173		10世紀後半	井戸(S E 203)	不明	(174.0)	23.0	4.0	板	欠損	剣先状?	上端に有、刻みの下に毛羽先状切込有
174		10世紀後半	井戸(S E 203)	D	170.0	22.0	4.0	板	平状	剣先状	上端に有、刻みの下に毛羽先状切込有
175	南興野遺跡(第2次)	11世紀前半	井戸(S E 64 F 2)	C	140.0	17.0	2.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
176		11世紀前半	井戸(S E 64 F 2)	C	122.0	15.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	
177		11世紀前半	井戸(S E 64 F 3)	不明	(144.5)	8.0	3.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
178		11世紀前半	井戸(S E 64 F 2)	不明	(143.0)	12.5	3.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
179		11世紀前半	井戸(S E 64 F 2)	C	124.5	15.5	2.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
180		11世紀前半	井戸(S E 64 F 3)	B	142.0	11.0	2.5	板	圭頭状	圭頭状	上端に有
181		11世紀前半	井戸(S E 64 F 3)	C	144.0	15.5	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
182		10世紀後半	井戸(S E 101 F 4)	C	(57.0)	14.0	2.5	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
					(77.0)	10.0	2.0				
183		10世紀後半	井戸(S E 101 F 3)	C	129.5	12.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有、上部左右
184		10世紀後半	井戸(S E 101 F 4)	C	128.0	10.0	2.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有、刻みの下に毛羽先状切込有
185		10世紀後半	井戸(S E 101 F 4)	C	126.5	8.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	
186		10世紀後半	井戸(S E 101 F 3)	不明	(119.0)	9.0	3.0	板	欠損	剣先状	
187		10世紀後半	井戸(S E 101 F 3)	C	112.0	8.0	3.0	板	圭頭状?	剣先状	上部に毛羽先状切込有
188		10世紀後半	井戸(S E 101 F 3)	C	137.0	14.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
189		10世紀後半	井戸(S E 101 F 3)	不明	(129.0)	6.0	3.0	板	欠損	欠損	
190		10世紀後半	井戸(S E 101 F 4)	不明	(174.0)	11.0	4.0	板	圭頭状?	欠損	
191		8世紀後半~9世紀前半	溝(S D 55 F 2)	C	199.0	18.0	3.0	板	平状	剣先状	
192	新青渡遺跡(第2次)	10世紀中葉~末葉	土壙(S K 250 F 9)	C	148.0	14.0	2.0	板	圭頭状	剣先状	
193		10世紀中葉~末葉	土壙(S K 250 F 9)	C	137.0	17.0	2.5	板	鈍角圭頭状	剣先状	
194		10世紀中葉~末葉	土壙(S K 250 F 9)	C	123.0	18.0	4.5	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有
195		10世紀末葉	土壙(S K 234 F 3)	不明	(98.0)	15.0	5.5	板	欠損	剣先状	
196		11世紀前半	土壙(S K 311 F 1)	不明	(77.0)	21.0	3.0	板	欠損	欠損	
197		11世紀前半	土壙(S K 311 F 1)	不明	(89.0)	16.0	4.0	板	欠損	剣先状	
198		11世紀前半	土壙(S K 311 F 1)	不明	(90.0)	8.0	3.0	板	欠損	剣先状	
199		11世紀前半	土壙(S K 311 F 1)	不明	(128.0)	7.0	4.0	棒	欠損	剣先状	
200		11世紀前半	土壙(S K 311 F 1)	B	211.0	12.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有
201		10世紀中葉~末葉	土壙(S K 250 F 9)	C	(143.0)	18.0	2.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有
202		10世紀中葉~末葉	土壙(S K 250 F 9)	C	139.0	18.0	3.0	板	圭頭状	剣先状	上端に有
203		10世紀中葉~末葉	土壙(S K 250 F 9)	B	142.0	13.0	3.5	板	圭頭状	圭頭状	上端に有
204		10世紀中葉~末葉	土壙(S K 250 F 9)	不明	(94.0)	16.5	4.0	板	圭頭状	欠損	上端に有
205		11世紀前半	土壙(S K 311 F 7)	不明	(109.0)	11.0	4.0	板	欠損	剣先状	
206		11世紀前半	土壙(S K 311 F 1)	不明	(124.0)	13.0	5.0	板	欠損	剣先状	
207		11世紀前半	土壙(S K 311 F 1)	不明	(76.0)	16.0	6.0	板	鈍角圭頭状	欠損	
208		11世紀前半	土壙(S K 311 F 7)	不明	(142.0)	14.0	3.0	板	鈍角圭頭状	欠損	
209		11世紀前半	土壙(S K 311)	不明	(201.0)	22.0	4.0	板	鈍角圭頭状	欠損	
210		11世紀前半	土壙(S K 311)	C	220.0	11.0	3.5	板	鈍角圭頭状	剣先状	
211		11世紀前半	土壙(S K 311)	C	228.0	11.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	
212		11世紀前半	土壙(S K 311)	C	232.0	12.5	3.5	板	鈍角圭頭状	剣先状	
213	山田遺跡	8世紀末葉~10世紀初頭	河川(S G 172 F 2)	不明	(266.0)	22.0	6.0	板	圭頭状	欠損	
214		8世紀末葉~10世紀初頭	河川(S G 172 F 2)	B	177.0	18.0	5.0	板	鈍角圭頭状	鈍角圭頭状	
215		8世紀末葉~10世紀初頭	河川(S G 172 F 2)	不明	(150.0)	25.0	7.0	板	斜状	欠損	
216		8世紀末葉~10世紀初頭	河川(S G 172 F 2)	不明	(273.0)	28.0	6.0	板	欠損	棒状	
217		8世紀末葉~10世紀初頭	河川(S G 172 F 2)	不明	(174.0)	18.0	5.0	板	欠損	剣先状?	
218	五百刈遺跡	9世紀後半	グリッド(1-21- )	C	101.0	13.0	5.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	
219	団地田遺跡	9世紀	溝(S D 2)	不明	(123.0)	22.5	3.0	板	圭頭状	欠損	
220		9世紀	溝(S D 2)	不明	(147.0)	18.0	12.0	棒	欠損	欠損	
221		9世紀	溝(S D 2)	不明	(198.0)	18.0	6.0	板	欠損	欠損	
222		9世紀	溝(S D 2)	不明	(75.0)	13.5	6.0	板	欠損	斜状	
223	藤島城跡(第6次)	15世紀中葉~16世紀中葉	土壙(S K 72 F)	D	285.0	26.0	3.0	板	平状	剣先状	
224	今塚遺跡	9世紀	溝(S D 377)	C IX	160.0	22.0	5.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上端に有、刻みの下に毛羽先状切込有
225	道伝遺跡(第2次)	8世紀末	溝(S D 24)	B	185.0	18.0	4.0	板	鈍角圭頭状	圭頭状	上部両脇に毛羽先状切込有
226		8世紀末	溝(S D 24)	C	176.0	19.0	3.0	板	鈍角圭頭状	剣先状	上部両脇に毛羽先状切込有